

SIST

科学技術情報流通技術基準

書誌データの記述

SIST 10 -1985

(1991 確認)

昭和 60 年 3 月 13 日 制定

科学技術情報流通技術基準検討会 審議

(科学技術振興事業団 発行)

基準制定：科学技術庁 基準案策定：昭和 55 年 3 月 基準制定：昭和 60 年 3 月 確認：平成 3 年 3 月

審議 会：科学技術情報流通技術基準検討会（科学技術庁科学技術振興局科学技術情報課）

原案作成：科学技術情報流通技術基準作成委員会（日本科学技術情報センター）

科学技術情報流通技術基準原案作成委員会（日本科学技術情報センター）

基準案修正：科学技術情報流通技術基準作成委員会（日本科学技術情報センター）

科学技術情報流通技術基準案修正委員会（日本科学技術情報センター）

科学技術情報流通技術基準検討会

(委員長)	大塚 明郎	ISO/TC46国内対策専門委員会委員
	石山 洋	国立国会図書館参考書誌部司書監
	占部 道敏	文部省学術国際局学術情報課長
	太田憲一郎	工業技術院標準部電気規格課長
	川島 順	(財)日本特許情報センター情報処理部長
	木澤 誠	図書館情報大学副学長
	草葉緋紗夫	農林水産省農林水産技術会議事務局企画調査課長
	久保 勲	日本電信電話公社データ通信本部総括部次長
	佐々木敏雄	図書館情報大学図書館情報学部教授
	下川 純一	日本原子力研究所技術情報部長
	染野 檀	鶴岡工業高等専門学校長
	中村 幸雄	(社)日本ドクメンテーション協会副会長
	仲本秀四郎	(財)国際科学振興財団客員研究員
	長山 泰介	(財)日本医薬情報センター理事
	成岡 昌夫	摂南大学工学部教授
	濱田 敏郎	慶應義塾大学文学部教授
	益子洋一郎	元工業技術院東京工業試験所長
	山内 脩司	日本科学技術情報センター技術管理室長
	山本 征一	(財)国際医学情報センター業務部長代理
(事務局)	科学技術庁振興局管理課情報室	

科学技術情報流通技術基準作成委員会

(委員長)	中村 幸雄	(社)日本ドクメンテーション協会副会長
	市川 幸郎	旭硝子(株)特許部資料室長
	木澤 誠	図書館情報大学副学長
	長山 泰介	(財)日本医薬情報センター理事
	山内 脩司	日本科学技術情報センター技術管理室長
(事務局)	日本科学技術情報センター技術管理室	

科学技術情報流通技術基準案修正委員会

(主 査)	仲本秀四郎	(財)国際科学振興財団客員研究員
	神尾 達夫	日本経済新聞社データバンク局記事情報部次長
	高野 文雄	日本科学技術情報センター電子計算機部システム課長代理
	田代貴代子	国立国会図書館総務部電子計算課主査
	田村 俊作	慶應義塾大学文学部図書館・情報学科助手 (59. 5まで)
	内藤 衛亮	東京大学文献情報センター助教授
	門條 司	(社)化学情報協会研究部 (59. 10から)
(事務局)	日本科学技術情報センター技術管理室	

科学技術情報流通技術基準

書誌データの記述

目 次

1. 適用範囲	1
2. 用語の意味	1
3. 通則	2
3.1 資料種類	2
3.2 書誌レベル	2
3.2.1 記事レベル (A)	2
3.2.2 単行書レベル (M)	2
3.2.3 逐次刊行物レベル (S)	2
3.2.4 合集レベル (C)	3
3.3 データ要素の種類	3
3.4 データ要素の機能	3
3.4.1 表示要素	3
3.4.2 検索要素	3
3.5 データ要素を求める箇所	4
3.6 記述言語	4
3.7 表記	4
3.7.1 記述に用いる表記法	4
3.7.2 検索要素の表記法	4
3.8 使用文字	5
3.8.1 表示要素に使用する文字	5
3.8.2 検索要素に使用する文字	5
3.9 翻字	5
3.10 略記法	5
3.11 不正確な要素	5
4. データ要素の記述	6
4.1 著者事項	6
4.1.1 著者名	6
4.1.1.1 個人著者名	6
4.1.1.2 団体著者名	6
4.1.2 所属機関	7
4.1.3 役割表示	7
4.2 標題事項	7
4.2.1 標題	7
4.2.1.1 論文名	7

4.2.1.2	誌名	7
4.2.1.3	書名	8
4.2.1.4	叢書名	8
4.2.2	会議名	8
4.2.2.1	会議名	8
4.2.2.2	開催回次	8
4.2.2.3	会議開催地	8
4.2.2.4	会議開催期間	8
4.2.3	原標題	9
4.3	出版事項	9
4.3.1	出版者名	9
4.3.2	出版地	9
4.3.3	出版年月日	9
4.3.4	版表示	9
4.3.5	巻・号	9
4.3.6	ページ	9
4.4	主題事項	10
4.4.1	抄録	10
4.4.2	キーワード	10
4.4.2.1	ディスクリプタ	10
4.4.2.2	フリーキーワード	10
4.4.3	分類記号	10
4.5	識別事項	10
4.5.1	国際標準図書番号 (ISBN)	10
4.5.2	国際標準逐次刊行物番号 (ISSN)	10
4.5.3	米国材料試験協会雑誌識別コード (CODEN)	11
4.5.4	レポート番号	11
4.6	追加事項	11
4.6.1	本文の言語	11
4.6.2	入手先又は情報源	11
4.6.3	資料名における学位名	11
4.6.4	参照文献の数	11
4.6.5	写真・図・表の数	11
4.6.6	資料種類	11
4.6.7	刊行頻度	11
4.6.8	媒体表示	11
解 説		12

科学技術情報流通技術基準

書誌データの記述

Data Description for Bibliographic Information

1. 適用範囲

この基準は、書誌的情報のデータベースを作成する際の、書誌データ要素の選定と記述について、原則と指針を与えるものである。

2. 用語の意味

この基準で使用する主な用語の意味は、次のとおりである。

(1) キーワード (keyword)

記事の主題分析の結果、その主題を端的に表現する用語。

(2) 書誌レベル (bibliographic level)

1 資料に記事が多数含まれているとき、対象記事と原資料の間は並列でなく、階層関係にある。この関係を表示する概念。

(3) 書誌データ要素 (data element)

書誌情報記述を構成し、独立した記述の内容をもつ単位。

(4) ディスクリプタ (descriptor)

記事の主題を表示するキーワードのうち、意味及び表記を統制されている語。

(5) 媒体表示 (medium indicator)

印刷形態以外の媒体を使用した資料であることの表示。マイクロフィルム・磁気テープなどによる資料について示す。

(6) フリーキーワード (free keyword)

文献の主題を表示する非統制語のキーワード。

(7) 人の役割表示 (author role indicator)

記事と個人又は団体との関係の表示。

参照又は関連する基準・規格：SIST 01 抄録作成

SIST 04 書誌的情報交換用レコードフォーマット (内形式)

SIST 05 雑誌名の略記

SIST 06 機関名の表記

SIST 08 学術論文の構成とその要素

3. 通 則

3.1 資料種類

この基準の対象とする資料は、次のとおりである。

- (1) 逐次刊行物
- (2) レポート
- (3) 会議報告
- (4) 論文集
- (5) 単行書
- (6) 学位論文
- (7) 会議予稿集

3.2 書誌レベル

書誌データの記述にあたって、考慮すべき書誌レベルは次のとおりである。

3.2.1 記事レベル (A)

雑誌の1論文や会議報告の1発表のように、より大きな資料の一部分である記事をさして
おり、常に最下位のレベルである。すなわち、一つの単位として、これ以上細分できない記
事のレベルをいう。

3.2.2 単行書レベル (M)

自立して1件の資料として扱うとき、単行書レベルにあるという。図書等がこれにあたる。

3.2.3 逐次刊行物レベル (S)

定期又は不定期に継続的に発行される資料をさして、逐次刊行物レベルにあるという。雑
誌、年報などがその例である。

JIS X 0201	情報交換用符号
JIS X 0208	情報交換用漢字符号
JIS X 0301	日付の表示 (コード)
JIS Z 8201	数学記号
JIS Z 8202	量記号、単位記号及び化学記号
JIS Z 203	国際単位系 (SI) 及びその使い方
ISO 4	Documentation-Rules for the abbreviation of title words and titles of publications
ISO 9	Documentation-Transliteration of Slavic Cyrillic characters into Latin characters
ISO 233	Documentation-Transliteration of Arabic characters into Latin characters
ISO 259	Documentation-Transliteration of Hebrew characters into Latin characters
ISO 832	Documentation-Bibliographical references-Abbreviations of typical words
ISO/R 843	International system for the transliteration of Greek characters into Latin characters
ISO 8601	Data elements interchange formats-Information interchange-Representation of dates and times
ISO 3166	Codes for the representation of names of countries
ISO 7098	Documentation-Romanization of Chinese

3.2.4 合集レベル (C)

少なくとも2つ以上の自立資料からなる対象著作物を合集レベルにあるという。報告書集・図面等のセットがそれである。

3.3 データ要素の種類

書誌的情報の記述に必要なデータ要素は、内容からみて次のグループにくることができる。

(1) 著者事項

著者名
著者の所属機関及び属性
役割表示

(2) 標題事項

主要標題
会議名, 会議開催地, 会議開催年月日, 主催機関
原標題

(3) 出版事項

出版者, 出版地
出版年月日
版表示
雑誌の巻数・号数
ページ

(4) 主題事項

抄録
キーワード
分類記号

(5) 識別事項

ISBN, ISSN, CODEN, レポート番号

(6) 追加事項

本文の言語, 入手先又は情報源, 学位名, 参考文献の数, 写真・図・表の数, 資料種類, 刊行頻度, 媒体表示

3.4 データ要素の機能

データ要素には、その目的・機能により、検索に用いられるデータ要素と、文献を表示するための要素がある。

3.4.1 表示要素

文献の形態・内容を表示するのに必要なデータ要素をいう。

3.4.2 検索要素

情報検索の際、記事の同定に主要な働きを持つ要素である。著者名, 論文名, キーワード, 分類記号などがこれにあたる。

3.5 データ要素を求める箇所

- (1) 書誌的情報の記述のためのデータ要素は、資料そのものから得る。その資料から直接得られない場合は、それに代わる書誌的情報源を用いる。
- (2) 雑誌の誌名、巻数、号数等のデータ要素は表紙及びマストヘッド等から求める。図書の著者名、編者名、標題等のデータ要素は、標題紙又は奥付等から求める。
- (3) 資料の一部（雑誌論文、図書の1章等）に関するデータ要素、例えば、その部分の著者名、所属機関、論文標題、ページ等は、論文又はページから求める。

3.6 記述言語

記事に使用されている言語及び文字は、必要な場合、データベースに用いる言語に翻訳又は翻字する。データ要素によっては、原語・原綴で記述してもよい。

3.7 表記

3.7.1 記述に用いる表記法

- (1) 仮名遣いは内閣告示「現代仮名遣い」に従う。
- (2) 送り仮名は内閣告示「送り仮名の付け方」に従う。
- (3) 学術用語は、文部省「学術用語集」、「JIS用語集」又は当該分野の権威ある用語集、用語辞典などに従う。
- (4) 日本語訳の定着していない学術用語は、原文表記又はローマ字へ翻字して、書き表す。ただし、日本語にした方が分かりやすい場合は適切な日本語に訳し、原語を括弧（ ）内に表記する。

例：計量情報学 (Informetrics)

- (5) ローマ字表記が慣用されている用語は慣用されているローマ字表記を使用する。
例：pH効果, Ramanスペクトル, Mott転移, Aphralysia属
- (6) 略語、略称、略号でその分野で慣用されているものは、それに従う。慣用されていないものは、日本語訳又は原語を括弧（ ）で囲んで添える。

例：COBOL, OECD FCC金属, Ms点

MAP (北米水平測地基準点) HC - Mill (High Crown Control Mill)

- (7) 計量単位記号は原則として原記事表記に従い、数値は換算しない。
- (8) 外国の機関名、会社名、商品名など、カタカナ表記又は和訳名が慣用されているものは、それに従う。慣用されていないものは原語、必要な場合にはローマ字に翻字して書き表す。

例：US Bureau of Mines→米国鉱山局

Armco鉄→アームコ鉄

3.7.2 検索要素の表記法

- (1) データ要素のうち検索に用いるものは、カタカナ又はローマ字の記述を併記する。
- (2) 表現及び記述が複数あるときは、典拠又は慣習に従い、統一することが望ましい。

3.8 使用文字

3.8.1 表示要素に使用する文字

表示要素に使用する文字は、JIS X 0201情報交換用符号及びJIS X 0208情報交換用漢字符号に定める範囲のものに限る。

3.8.2 検索要素に使用する文字

検索に使用するデータを、カタカナ又はローマ字で記述する場合、JIS X 0201で設定されている範囲の文字を使用する。

3.9 翻字

データベースに用いる文字に変換する場合は、翻字の国際規格に従う。

参 考

ISO 9	Documentation-Transliteration of Slavic Cyrillic Characters into Latin characters
ISO 233	Documentation-Transliteration of Arabic characters into Latin characters
ISO 259	Documentation-Transliteration of Hebrew characters into Latin characters
ISO/R 843	International system for the transliteration of Greek characters into Latin characters
ISO 7098	Documentation-Romanization of Chinese

3.10 略記法

略記する場合は、国際規格、国内規格、基準に準拠する。

参 考

SIST 05	雑誌名の略記
SIST 06	機関名の表記
ISO 4	Documentation-Rules for the abbreviation of title words and titles of publications
ISO 832	Documentation-Bibliographical references-Abbreviations of typical words
ISO 3166	Codes for the representation of names of countries

3.11 不正確な要素

不正確なデータ要素を記述するときは、なるべく、[] に包んで補記するか、注記する。

4. データ要素の記述

4.1 著者事項

4.1.1 著者名

4.1.1.1 個人著者名

- (1) 個人著者名は、記事に記載されているとおりに記述する。ただし、必要な場合は翻字する。
- (2) 最初に姓を、次に名を記述する。欧文著者名では姓のあとにコンマ (,) を入れる。
例1：弘田 実弥 ヒロタ ジツヤ。
例2：Gehrke, Klaus
- (3) 「名」が二つ以上記載されているときは、頭字のみを記述する。頭字にはピリオド (.) を付しスペースはとらない。一つの「名」のみが記されていれば、完全に記述する。
例1：Snyder, J.J.
例2：Gebuer, Ulrich
- (4) すべての称号・学位は省く。
例：Dr. Volker Steinert→Steinert, Volker
- (5) 翻字で記述する場合、記載されていれば、そのとおりに使用する。記載されてなければ、ISO規格による。
- (6) Jr, III, de, vonなど姓名に付随するものは、統一した方法で記述する。
例：John H.Wickham, Jr.→Wickham, J.H.Jr.
- (7) 複数の個人著者名は、記事上の順序に記述する。

4.1.1.2 団体著者名

- (1) 記事に記載されている団体名は、原則としてSIST 06に従って記述する。標準化されていないときは、記事に記載されているとおりに記述する。使用字種のないときは翻字する。
例：日本鉄鋼協会 ニホン テッコウ キョウカイ
- (2) 翻字は個人著者名に準じる。
- (3) 複数のレベルがある場合は、規模の大きい順に書き、いくつかある場合は、識別に効果的な二つを選択して記述する。
例1：National Bureau of Standards, Center for Absolute Physical Quantities
(Washington, D.C.)
例2：日本鋼管<株式会社>技術研究所<福山研究所>
ニホン コウカン<カブシキカイシャ>ギジュツ ケンキュウショ<フクヤマ
ケンキュウショ>
注：< >は省略してもよいことを示す。
- (4) 省略語や頭字語の使用はなるべく避ける。略語を使用する場合は、完全形を別記する。
- (5) 国名はISO 3166の2字コードを使用する。

4.1.2 所属機関

- (1) 記事上に記載されている名称と所在地をSIST 06に従って記述する。標準化されていないときは、文献に記載されているとおりに記述する。使用字種のないときは翻字する。

例：大阪府立公衆衛生研究所

オオサカ フリツ コウシュウ エイセイ ケンキュウジョ

- (2) 複数のレベルがある場合は、規模の大きい順に書くが、いくつかある場合は、識別に効果的な二つを選択して記述する。
- (3) 省略語や頭字語の使用は避ける。略語を使用する場合は、完全形を別記する。
- (4) 国名はISO 3166の2字コードを使用する。

4.1.3 役割表示

文献と個人の関係について、必要があれば記述する。

例1：Smith, T.H., ed.

例2：竹田 一雄 訳 タケダ カズオ

4.2 標題事項

4.2.1 標 題

4.2.1.1 論文名

- (1) 記事に記載されている標題を、データベースに用いられる言語で記述し、必要な場合は翻訳する。

例：Ziegler-Natta-ニッケル触媒系によるスチレンの重合の速度論

Ziegler-Natta-ニッケル ショクパイケイ ニヨル スチレン ノ ジュウゴウ
ノ ソクドロン

- (2) 副標題は、標題の後にスペースを入れて、続ける。
- (3) 単行書の1章である場合は、単行書の書名を上位レベルの標題として、4.2.1.3に合わせて記述する。この際、章の番号は論文名に含まれる。
- (4) 雑誌論文では、誌名を上位レベルの標題として、4.2.1.2に合わせて記述する。

4.2.1.2 誌 名

- (1) 誌名は、原則として、略記せずに完全誌名を原名で記述する。使用字種の範囲内で記述できないときは、翻字する。

例：Plaste und Kautschuk

- (2) 略記の必要がある場合は、ISO 4及びSISIT 05に従う。
- (3) ISDSのキータイトルが確認できる場合には、これを使用してもよい。
- (4) 冠詞・接続詞・前置詞を除く各語の初字を大文字とする。ただし、誌名の初語及び固有名詞の初字は常に大文字とする。

例：Journal of Physics and Chemistry of Solids

- (5) 雑誌が部・編等に分かれて発行され、共通誌名のほかに部（又は編等）の誌名（及び番号）をもつときには、共通誌名に続けて部（又は編等）の誌名（及び番号）を記述する。

例：福井大学教育学部紀要，第2部，自然科学

- (6) 同一誌名を持つ逐次刊行物のあるときは、誌名の後に、出版地を付記して区別する。
例：Natura (Amsterdam), Natura (Milano)

4.2.1.3 書名

- (1) 書名はデータベースに用いる言語で記述する。必要な場合は翻訳する。
例：Manual on Radiation Dosimetry→放射線量学マニュアル
ホウシャセンリョウガク マニュアル
- (2) 叢書の一巻であるときは、上位レベルの標題として叢書名を記述する。

4.2.1.4 叢書名

叢書名は資料にあるとおりに記述する。必要な場合は翻訳する。

4.2.2 会議名

4.2.2.1 会議名

会議名は略記せずに、原則として、正式の名称を最も完全な形で記述する。使用文字種の範囲内で記述できないときは、翻字する。

例：Mammalian Genetics and Cancer, Jackson Laboratory Fiftieth Anniversary Symposium

4.2.2.2 開催回次

開催回次はアラビア数字を用いる。

4.2.2.3 会議開催地

- (1) 都市名で記述し、区別の困難なときは国名を追加する。
例：Interlarken, Bar Harbor, ME, US
- (2) 国名の略記はISO 3166に従う。
例：イギリス→GB

参 考

ISO 3166 Codes for the representation of names of countries

4.2.2.4 会議開催期間

- (1) 会議の開始日と終了日を、アラビア数字を用いて記述する。
(2) 記述形式はJIS X 301又はISO 8601に従う。

参 考

JIS X 0301 日付の表示 (コード)

ISO 8601 Data elements and interchange formats-Information interchange-Representation of dates and times

例：1983-06-27 1983-07-01

4.2.3 原標題

- (1) 記事の標題がデータベースに用いられる言語以外で記載されている場合は、記載されているとおりの標題を、使用文字種外のときは翻字して記述する。

例：Untersuchungen zur Kinetik der Styrenpolymerisation mit einem Ziegler-Natta-Nickelkatalysatorsystem

- (2) 冠詞・接続詞・前置詞を除く各語の初字を大文字とする。ただし、初語及び固有名詞の初字は常に大文字とする。

4.3 出版事項

4.3.1 出版者名

文献に記載されている出版者名をSIST 06に従って記述する。必要な場合は翻字する。

例1：Deutscher Verlag fuer Grundstoffindustrie.

例2：日本鉄鋼協会 ニホン テッコウ キョウカイ

4.3.2 出版地

同名の出版者があるときは、出版地を併記する。記述は4.2.2.3会議開催地に準ずる。

例：Elsevier, New York

4.3.3 出版年月日

- (1) 出版年は西暦で統一し、JIS X 0301又はISO 8601に従って、アラビア数字で記述する。

例：1984-05

- (2) 出版年月日が不正確なときは、〔?〕を添える。

4.3.4 版表示

文献上に版表示が記載されているときは、初版を除き、アラビア数字で記述する。

4.3.5 巻・号

- (1) 巻数・号数はアラビア数字に統一し、順序数は基数に変換する。

例：31 (5)

- (2) 巻・号と年月の両者がある場合は、巻・号を使用する。

4.3.6 ページ

- (1) ページはアラビア数字で記述する。

- (2) 初めのページと終わりのページをハイフンで結び、先頭にp.を付する。

例：p.163-165

- (3) ページが途中でとんでいる場合はコンマ (,) で区切る。

例：p.1-5, 7-9

- (4) 通しページと各号ごとのページの両方がある場合は、通しページを記述する。

- (5) 1冊の資料全体が対象のときは、総ページ数を記述し、その後p.を付する。

例：282p

4.4 主題事項

4.4.1 抄録

- (1) SIST 01抄録作成に従い、データベースに用いられる言語で記述する。
- (2) 抄録の末尾に、著者抄録参照文は抄録誌参照の注記、若しくは抄録者名を付してもよい。

参考

SIST 01 抄録作成

4.4.2 キーワード

キーワードには、ディスクリプタなどの統制語と、フリーキーワードなどの非統制語の2種類がある。

4.4.2.1 ディスクリプタ

- (1) ディスクリプタは、シソーラスに従って記述する。
- (2) 記事にいくつかの主題がある場合、一つの主題に対して、ディスクリプタを、少なくとも1個は付与する。

例1：Lewis酸 Ziegler-Natta触媒, 三成分系, 立体特異性重合, 反応速度, 濃度依存性, 化学組成, 分子量,

Lewisサン, Ziegler-Nattaシヨクパイ, サンセイブンケイ, リットイトクイセイジュウゴウ, ハンノウソクド, ノウドイゾンセイ, カガクソセイ, ブンシリョウ

4.4.2.2 フリーキーワード

記事にいくつかの主題がある場合、一つの主題に対して、フリーキーワードを少なくとも1個は付与する。ただし、ディスクリプタと併用している場合はその限りではない。

4.4.3 分類記号

分類記号は、使用する分類表に従って記述する。

例1：CG04022A, CG04070V

例2：542.952：547.4/.9, 542.952.6：541.128.1

4.5 識別事項

4.5.1 国際標準図書番号 (ISBN)

資料に付記されたISBNを記述する。

4.5.2 国際標準逐次刊行物番号 (ISSN)

資料に付記されたISSNを記述する。

4.5.3 米国材料試験協会雑誌識別コード (CODEN)

資料に付記されたCODENを記述する。

4.5.4 レポート番号

資料に記載してあるように、句読点・スペースも含めて記述する。2個以上あるときはすべて書く。

例：JAERI 1289

4.6 追加事項

4.6.1 本文の言語

- (1) 記事本文に使用されている言語を、言語コード又はデータベースに用いる言語によって記述する。本文の言語がデータベース言語と同一のときは省略する。
- (2) 複数の書誌レベルがある場合は、対象とする書誌レベルの言語表示を行う。
- (3) 標準又は慣用の言語コードを用いてもよい。

4.6.2 入手先又は情報源

文献入手先の機関名及びその住所、入手価格又は取得に関する情報などを記述する。団体著者名の記述に従う。

例：〒224 相模原市北里1-15-1 北里大学医学部精神科

4.6.3 資料名における学位名

資料に記載されているとおりに記述する。必要な場合は翻字する。

4.6.4 参照文献の数

参照文献の数をアラビア数字で表す。

4.6.5 写真・図・表の数

資料に収められた、写真・図・表などの件数を示すため、事項を表す用語（例、写真、図、表、肖像、地図など）に続けて、件数を記述する。

個々の図版の説明を付記したい場合は注記してもよい。

例：写真・図：11，表：1.

4.6.6 資料種類

定められたコードに従い、資料種類を記述する。

4.6.7 刊行頻度

逐次刊行物の刊行頻度を記述する。常用される簡略形を使用してもよい。

4.6.8 媒体表示

資料の形態を示すために、常用される簡略形を、自由な形式で記述してもよい。

科学技術情報流通技術基準 書誌データの記述 解説

機械可読形態で情報交換をしようとするれば、多くの点で発受信の両者の間に技術的合意が必要である。SIST 03 書誌的情報交換用レコードフォーマット（外形式）によれば、磁気テープ上の枠組みが決まるし、SIST 04 書誌的情報交換用レコードフォーマット（内形式）で、どの書誌要素をどの枠にはめるかが決められる。それから先は、その枠内にデータをどのように記述するかということになり、その原則と指針を定めようとするのが、このSIST 10 書誌データの記述である。もっとも大まかな原則は、原資料に記載してあるとおりのことになるが、記載の仕方は資料によってまちまちであり、データベースとしてサービスに供しようとするれば、そのデータベースのなかだけでも、統一した記述の仕方をとることになる。その場合でも、これを利用者側からみれば、データベースごとに書誌記述の仕方が異なるのでは、利用に不便を感ずることが想像に難くない。SIST 10は種々のデータベースを通じ、統一された書誌記述でレコードが作成されるのを目的としてつくられた基準である。

一口にデータベースといっても、文献データベースからファクトデータベースと、多くの種類と利用者があり、すべてを統一することは困難である。ここでは、科学技術文献の利用者を想定しそのレベルでの内容・表現・技術を考えているから、新聞記事のデータベースや経済データベースでは、若干、記述の言語などを変更しなければならない。しかし、考え方、取り扱いは同じである。

1. SIST 02からの分離

SIST 10は旧SIST 02-1980の修正作業の延長上に作られた基準である。「SIST 02 参考文献の書き方」でも述べたように、旧SIST 02は参考文献と二次資料の二つの対象を規定する目的で作られた基準であった。しかし、「SIST 07 学術雑誌の構成とその要素」が制定され、「SIST 08 学術論文の構成とその要素」と「SIST 09 科学技術レポートの様式」が策定されたことを考慮すると、参考文献記述の基準はこれらの基準と同じ分野に属するものであり、適用者を異にする点から考えて、「SIST 04 書誌的情報交換用レコードフォーマット（内形式）」が準拠する基準は、分離するのが自然と考えられた。

しかも、二次資料は印刷体からデータベース化に移行しているのが、大部分であり、電算機による検索機能、検索条件による制限・統制を考慮すると、冊子体を目標としていた旧SIST 02は根本的に見直す必要があるとされた。かくて、機械可読化の点から見直しを迫られていたSIST 02は、単に機械可読記述に止まらず、さらに進めて、データベース化を考慮した基準作成に導かれ、このSIST 10となったものである。

2. 形式性の除外

旧SIST 02では、書誌要素を構成する書誌的情報の記述、書誌要素の順序、用字、句読法まで、記述の形式にかなりの内容を割いていた。ところが、機械可読情報の入力にあたって、これら形式は各システムで任意に設計するのが大部分で、この点までの標準化は、かえって標準の性格を失うものとされた。例えば、同じデータ要素の繰り返しでも、句読点で区切って一つのサブフィールドに収める方法もあれば、サブフィールドを繰り返すやり方もあり、一義的に指定するのは困難であ

る。また、ディスプレイ上やプリントアウトの形式性も各システムに任せることとし、この基準では形式性を除外している。したがって、データ要素内の順序や、慣習若しくはその統一を図った句読法はあっても、フィールド、サブフィールドなどの語や、その観点に立った指定はない。あるのはデータ要素内の形式性のみである。

3.1 資料種類

資料種類としては、特許情報は除外してある。特許も文献情報としての重要な価値をもっているが、すでに権利情報として特許データベースがかなり整備されてきている現状があり、重複した形の文献情報は強いて対象にしなくてもよいし、また、苦勞して作成しても、専門データベースで十分という意見もあり、積極的に除外した内容になっている。

3.2 書誌レベル

情報を案内する二次資料の性格上、資料から分出した文献記事での記述を、この基準の対象としている。したがって、論文や記事のような文献と原資料の関係を示す書誌レベルは、二次情報サービスにとって重要な概念である。書誌的情報の記述には、対象の記述に加えてその上位の、分出した原資料の記述がぜひ必要である。この点についてはSIST 02でもSIST 04でも強調されたことであるが、「2. 形式性の除外」でも述べたように、この基準はデータ要素単位となったため、書誌レベルに触れることはなかった。そこで、この解説を借りて上位レベル書誌記述の必要性を喚起しておきたい。記述にあたっては、常に書誌レベルを念頭において欲しいということである。

3.6 記述言語

情報の案内である二次資料の目的からいって、抄録やディスクリプタなどの主題事項を表す言語と書誌データを記述する言語とは、同じに統一する必要がある。すなわち、対象として外国語情報を扱う以上、主題内容を表現するには、利用者にfriendlyな言語に翻訳することが望ましく、これがデータベース言語ということになる。著者名のような固有名詞を別として、なるべく単一の記述言語で表現することにより、多様な各種言語の情報の内容を理解する困難さから解放されることになる。しかし、原記述も原資料を参照するのに必要なもので、併せて記述しなければならない。データベースによって、データ要素ごとにデータベース言語によるか原語記述によるか、それぞれの特徴によって異なっているが、ここでは通常の文献情報サービスのレベルで考慮するように考えている。出版事項ばかりでなく、標題事項や追加事項をデータベース言語で記述するような内容になっている。ISBD (International Standard of Bibliographic Description) が指定している全国書誌作成機関の言語より広い範囲で、データ要素の翻訳を求めている。

4.1 著者事項

団体著者の項に住所を記述するようになっていないが、所属機関には住所を記述するように指定してあるのは、前者と後者の必要度の違いからである。したがって、団体著者に住所を記述しても差し支えない。

日本人著者の姓と名を分かち書きするよう提案もあったが、まだ一般化していないので、特に指定せず、例示に止めている。システムによってはフリガナを分かち書きしている例がある。

役割表示は当初、編 (ed.)、訳 (tr.) など、具体的に指定すべきであるとされたが、責任表示とからんで、詳細な指定をせず、任意としている。

機関名は正式名称を記述することになっているが、慣用されている省略形、例えばIBMやNTISのような記述は許される。

4.2 標題事項

会議開催地は単純に都市名と記しているが、Wien, Viennaと独語名と英語名の選択も課題であり、Webster's New Collegiate Dictionaryの地名の章を参考とするよう薦める。これにないときは原記述によることになるが、その際は必要に応じて翻字する。

科学技術情報 SIST 10-1985
流通技術基準 書誌データの記述

1985年（昭和60年） 6月 第一刷発行
2002年（平成14年） 3月 第四刷発行

編集 文部科学省研究振興局情報課

〒100-8966 東京都千代田区霞が関一丁目3-2
電話 (03) 5253-4111 (代表)

発行 科学技術振興機構

〒102-8666 東京都千代田区四番町五番地三
電話 (03) 5214-8406

SIST

**Standards for Information of
Science & Technology**

Data Description for Bibliographic Information

SIST 10 -1985
(Reaffirmed 1991)

Established 1985-03-31

Investigated by
Committee on Standards for Information of
Science & Technology
in Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

Published by
Japan Science and Technology Agency

5-3, Yonbancho,
Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

Printed in Japan